

昭和南海地震から 70 年シンポジウム～情報と行動があなたの命を救う～

平成 28(2016)年 12 月 6 日(火)、緊急地震速報利用者協議会は(一財)気象業務支援センターとの共同事業として高知県民文化ホール(グリーンホール)を会場に、高知地方气象台、高知県、高知市と共催して、昭和南海地震から 70 年シンポジウム～情報と行動があなたの命を救う～を開催しました。

第 1 部の基調講演では、愛知工業大学工学部、内閣府本府政策参与(政策統括官(防災担当)付)の横田 崇教授に「南海トラフ地震を迎え撃つために」と題してご講演いただきました。

第 2 部のパネルディスカッションでは、東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター長の田中 淳教授にコーディネーターをお願いし、高知県 酒井危機管理部長の酒井浩一様、NHK 放送文化研究所 メディア研究部 上級研究員の入江さやか様、黒潮町 情報防災課長の松本敏郎様、RKC 高知放送 報道制作局次長兼 解説委員の久保田浩史様、高知地方气象台の荒谷 博台長の各氏にパネリストを務めていただきました。

事前の参加申し込みは 396 名でしたが、当日の入場者は 440 名程となりました。



パネルディスカッションで荒谷台長は、想定される南海トラフ地震は海溝型であり、緊急地震速報の想定モデルでは、高知市で主要動 S 波が到達するまでに 50 秒ほどの時間がありますので、緊急地震速報を防災行動のトリガーとして、それを見聞きしたら直ちに対応行動してほしいと話されました。また、他のパネリストからもそれぞれの立場で、現状、改善、今後の備えに向けた発言がありました。

シンポジウムにはテレビ報道 3 社、新聞報道 4 社が取材に訪れ、シンポジウムの様子などが大きく取り上げられました。また、会場では、初めての試みとして市民、学校、企業による様々な防災、減災への取り組みについてのポスターセッションも行われました。

本協議会の会員からは、(株)ANET 様にロビー前での展示にご協力いただきました。

